

婦人科系がんの治療

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 106 》

県立中央病院は女性特有のがんに対し、日本でも数少ない最先端の治療に取り組んでいる。厚生労働省の施設認定を受け、先進医療である子宮頸がんの腹腔鏡手術を7月からスタートするほか、1月から日本で初めて卵巣がんの分子標的薬「オラパリブ」の臨床使用を開始した。卵巣がんを予防するための「リスク低減手術」を行える医

婦人科副部長
坂本育子医師



腹腔鏡、分子標的薬を導入

療体制も整えている。

婦人科副部長の坂本育子医師によると、早期の子宮頸がんを対象にした腹腔鏡による広汎子宮全摘術は、厚生省が「高度な医療技術を要する治療」と認める先進医療のため、安全性が認められた施設のみで実施できる。県立中央病院が先進医療を行うのは初めて。

広汎子宮全摘術は、開腹手術では下腹部に約20cmの傷痕が残るのに対し、

し、腹腔鏡手術では約1cmの傷が4カ所のみ。手術費用は患者の自己負担だが、坂本医師は「若い女性患者が多いので傷が目立たないメリットは大きい。出血量が少なく、腸閉塞などの合併症を防げる。術後の回復も早い」と強調する。

「オラパリブ」は卵巣がんの原因に関わる遺伝子「BRCA1」や「BRCA2」に異常を持つがん細胞を死滅に導く。国内未承認の薬剤だが、同病院は、その有効性が無償で提供する国際的

な組織の制度を利用し、全国に先駆けて臨床での投与を始めた。従来の抗がん剤より副作用が少なく、これまでに再発もなく、治療効果が得られているという。

リスク低減手術は、米の人気女優アンジェリーナ・ジョリーさんが両乳房の切除・再建手術を受けたことで話題になった予防のための手術。同病院ではBRCA遺伝子に変異が認められる人を対象に、卵巣と卵管を摘出する手術が倫理委員会を経て可能になった。治療費は自費だが、手術によって卵巣がんを96%、98%、乳がんを50%、68%予防できるという。

「山梨の女性により良い医療を受けてもらいたい」と坂本医師。その強い思いで新たながん治療の道を開拓している。第2、4木曜日に掲載します



卵巣がんの分子標的薬「オラパリブ」。全国で初めて県立中央病院で臨床使用を始めた。従来の抗がん剤より副作用が少なく、治療効果が高いという